

<車>
米子市→県道24号→「大山寺の登山口」まで(約30分)

米子鬼太郎空港→JR境線「米子駅」(約20分)
→日本交通株式会社「大山寺」で下車(約50分)

アクセス方法

memo



小さな旅 ホームページ
<http://nhk.jp/kotabi>

小さな旅

～30年 こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 65

シリーズ山の歌 第3回
いつも心にそびえて
～鳥取県 大山～

2012年9月16日(日)放送



頂上からは緩やかな木道を歩き、頂上までではあと少しです。登りもきつくなってきましたが、それも8合目までの辛抱。8合目を過ぎると低木帯に入り見晴らしもよくなってきました。汗ばむ体心地もく感じます。フナの木漏れ日と、木々の間を通り抜ける風が、登山で大山の広大なフナ林、西日本最大の面積を誇っています。登山道を登り始めると、8合目付近までフナ林が続き、登山道から、すぐ近くに日本海が見え、360度の景色を楽しむことができます。この頂上、かつては草木の生えていた荒涼とした場所でした。大山に通じる道路が開通したことで、昭和40年ごろから登山客が増え、頂上の高山植物は踏み荒らされてしまいました。そこで地元の人々が始めたのが、「一木一石運動」でした。石や木の苗をふもとから運び上げ、頂上の土地を整備し緑を復活させようという運動です。人々の地道な活動が美り、緑豊かな頂上が再生されつつあります。

山頂の緑を再生

旅の見どころ 3



登山者をいやすフナ林

旅の見どころ 2

旅の見どころ 1

ふもとの暮らしと共にある大山

大山は、見上げる方角によって、さまざまな姿を見せる山として知られています。米子方面から見えるその端正な姿は、「伯耆富士」(ほうきふじ)と称されています。大山は「神宿る山」とも言われ、昔から信仰の対象でした。ふもとの田を潤すのは、山すそからわきだした伏流水、一年中枯れることがありません。山への信仰と、山が与えてくれる恵み、地域の人々は大山に敬意を込めて「大山さん」と呼びます。

